

# 男長

## ひとりごと

(55)

### 斉藤 讓

大相撲名古屋場所は、大方の予想を裏切って、本県出身の琴富士が平幕優勝を飾った。同郷にある者としてとてもうれしく、心からその榮譽を讃え、祝意を表したい。

しかし、それにしてもこの場所の上位、古参力士のふがい無さは、目をおおうばかりであった。横綱大乃国の途中引退、残る両横綱の一ケタ勝利はその最たるものである。

それに対して、優勝した琴富士と共に一日一日と強さを増してゆく新小結貴花田の活躍に象徴されるように、若手力士の著るしい進出によって、何とか救われたが、それにしては大相撲もいよいよ新旧交替の時期を迎えた感を深くした。

相撲解説を聞くと、活躍している力士は、いずれも稽古熱心で、また研究心が旺盛だということである。大向うをうならせ、今や相撲界を背負って立つ、若千十八歳の若武

者貴花田が、周囲のあれ程の重圧をはねのけ、あれだけの成績を残したのも、決してフロックではなく、ひと一倍の稽古と研究努力の結果であることは疑う余地がない。相撲はまさに、実力の世界であり、口先でつくろって渡れる世界では決してないのである。

ただ、今の状態で新旧の交替が行われた場合、若手が本当に実力をもって、上位、古参を越えたのかどうかは判断しかねる。なぜならば、先輩、古参が余りにも弱体化し、気合いを欠いているが故に、勞せずして自動的に交替ということもあり得るような気がするからである。上位、古参力士には、若手に絶対に負けまいとする日々厳しい精進が無ければならず、又若手は更にこれを上廻る努力をすることろに本當の世代交替の意味があり、これこそが相撲界の充実発展につながる唯一の道ではないか。大相撲の醍醐

味は新旧どちらもゆずらない、厳しい対決の中にこそあると、私は思っている。

いま郡部町村が抱える大きな課題は、老齡化の問題である。当町も現在六十五歳以上の老人人口の全人口に占める割合は、十八パーセントを超えた。このまま推移すると、三年後には二十パーセント、五人に一人は老人人口となる。そこで、活力のあるふる里を

### 世代交替を問う

築くためには、何としても若者をこの町にとどめたい、呼びこみたいと私は思ってきた。

しかし、私は名古屋場所の相撲を見ているうちに、これだけでは決して胸を張れる住みよい豊かな町づくりは出来ないことに気がついた。

間もなく人生八十五年時代を迎えようとしている今、六十、七十代は、まさに現役力士の上位、古参の立場ではないかと思ひあたった。この人達を、老人と位置づけること

自体が誤りである。現役引退は、棺を蓋した時でよい。自ら齡の重みに負けて、社会の一線から退き、物言わぬ穏やかな老人然としているのは、申し訳無い喩えであるが、綱の重みに耐えかねた大乃国と大同小異である。

自分達が築いてきたこの家を、この社会を若い者にそう簡単に渡してなるものかと踏張る先輩、なにくそ！負けるものかと食つく後輩、この両者ががっぷり四つに組んだところから、「親から子へ」「先輩から後輩」と家庭や社会が爽やかに、しかも充実感と誇りをもって育くみ継承されていくのだと思う。

ところで、およそ勝負にはいささかのケレン味や感情があつてはならない。故に、家庭や社会の中での新旧の対決も、勿論そうでなければならぬ。勿論それは言うまでもないことである。

当町では、今年から各地区ごとに、自ら考え実行する「高齢者生きがい対策創生事業」を推進することになり、各地区ともその事業計画が決定したようである。東陽地区では、社会奉仕事業として、新東陽病

院敷地内の草取りを行うこととして、既に実行に移され病院関係者はもとより、訪れる患者さんからも高い賞讃と感謝の声があがっている。そして、この作業の中から、「こ

これは、高齢者の皆さんが、自らが選んだ事業の実践を一つの契機として、町づくりの大きい手を出し、口を出してくれることを心から期待している。安易な若者への妥協は、一度しか無い人生への責任放棄である。

いま国政の場では、新旧交替が政局のかけ引きの材料として取りざたされている。権謀術数が渦巻く政界は、古参議員の異常とも思えるしぶとさだけが突出して、前途有為の中堅議員がこれに阿っている姿が目についてならない。

こんな状況の中で、果たして感動呼ぶ土俵のように、国際社会の大向うをうならせるような立派な国づくりが出来るのであろうか。再び言う。新旧交替は、共に真剣勝負でなければならぬ。